

## 平成27年度「国際探究Ⅰ」海外フィールドワーク

### 1. 主旨

スーパーグローバルハイスクール事業における学校設定科目「国際探究Ⅰ」の実施過程において、よりグローバルな視点で課題研究を進めるために、国外でのフィールドワークを実施する。

### 2. 具体的目標

- ・世界の「食糧問題」を考える上で、農業大国であるオーストラリアとの比較をもとに課題研究を進める上で、有効な調査活動を展開する。
- ・6月の本校におけるビクトリア大学生との「農と食」に関する意見交換活動を発展させ、同大学を拠点としてさらに研究交流を深める。

### 3. 実施日

- (1) 目的地：オーストラリア（メルボルン市内および近郊）
- (2) 期 日：平成27年11月19日（木）～11月24日（火）

### 4. 参加生徒

1年生10名（男2名、女8名）

海外フィールドワーク参加希望者に対して、活動説明と選考要項の説明会を実施し、「海外フィールドワークエントリーシート」を提出した最終希望者25名の中から、6名の審査員がシート内容の採点および研究テーマとの整合性を厳正且つ公正に評価した結果10名を選抜した。

### 5. （現地受け入れ先）

Dr. Mark Vicars, Dr. Ligia Pelosi, および、教育学部の学生数名（ビクトリア大学）

### 6. 引率者： 本校教職員3名

7. (日 程)

日次	月日(曜)	地 名	現地時間	交通機関	スケジュール	食事
①	11/19 (木)	秋 田 空 港 集 合 秋 田 空 港 発 羽 田 空 港 着 羽 田 空 港 発 成 田 空 港 着 成 田 空 港 発 メルボルン空港着 メルボルン空港発 ホ テ ル 着	06:30 07:30 08:35 09:05 10:20 12:15 00:10	NH402 リムジンバス JQ24 専 用 車	空路、羽田へ 成田空港へ 到着後、出国手続き 空路、メルボルンへ 到着後、入国手続き ホテルへ  【メルボルン泊】	昼:機内 夕:機内
②	11/20 (金)	メルボルン市内・近郊	09:30 12:30 14:00 16:30 19:30	専 用 車	朝食後、Williamstown High School へ Williamstown High School 到着 担当者スピーチ、ツアー参加 Victoria University 訪問 ウェルカムランチ 講義  ウェルカムBBQ  ウェルカムBBQ終了後、ホテルへ 【メルボルン泊】	朝:ホテル 昼:— 夕:—
③	11/21 (土)	メルボルン市内・近郊	10:00 12:30 14:00 16:00	専 用 車	朝食後、Victoria Market へ Victoria Market 到着 調査活動  専用車にて CERES Environment Park へ CERES Environment Park 到着 ガイドツアー ガイドツアー終了後、夕食レストランへ 夕食後、ホテルへ 【メルボルン泊】	朝:ホテル 昼:— 夕:レストラン
④	11/22 (日)	メルボルン市内・近郊	10:00 13:00 13:30 16:30	専 用 車	朝食後、Edendale Farm へ Edendale Farm 到着 体験活動・調査活動 Healsville Wildlife Ecological Sanctuary へ Healsville Wildlife Ecological Sanctuary 到 着  訪問終了後、夕食レストランへ 夕食後、ホテルへ 【メルボルン泊】	朝:ホテル 昼:— 夕:レストラン
⑤	11/23 (月)	メルボルン市内・近郊  メルボルン空港着 メルボルン空港発	10:00 14:00 17:00 23:00 00:55	専 用 車  JQ23	朝食後、Eco-Living Centre へ Eco-Living Centre 到着  Werribee Market Gardens にて栽培者による講義 訪問、講義終了後、夕食レストランへ 夕食後、メルボルン空港へ 到着後、出国手続き 空路、成田へ 【機中泊】	朝:ホテル 昼:— 夕:レストラン
⑥	11/24 (火)	成 田 空 港 着 成 田 空 港 発 羽 田 空 港 着 羽 田 空 港 発 秋 田 空 港 着	08:45 10:15 11:45 13:40 14:45	リムジンバス NH405	到着後、入国手続き 羽田空港へ 到着後、搭乗手続き 空路、秋田へ 到着後、解散	朝:機内 昼:—

\* 利用予定航空会社：NH（全日空） JQ（ジェットスター航空）

### 1日目（11/19）：

濃霧のため秋田空港発が遅れたことにより、成田空港で次のフライトまでの8時間待つことになった。  
空路変更（成田 20:10 発→ケアンズ空港 4:40 着/9:30 発→メルボルン空港 翌20日 13:50 着）



### 2日目（11/20）：

交通事情により、午前の高校、午後の大学訪問はキャンセル。予定していた16:00からのビクトリア大によるウェルカムバーベキューには間に合った。今年7月に来校した教授、学生と再会を喜び合った。日本やオーストラリアの「農と食」について、大学生と現地の食材を持ち寄ってのバーベキューを楽しんだ。



### 3日目（11/21）：

午前：無料トラムにて移動。ビクトリアマーケットで視察、試食、調査、英語でのインタビュー実施。マーケット内のフードツアーに参加し、ガイドのジュニーさんから説明を受ける。メルボルン最大のマーケットで1000以上もの店が並んでいる。実際の店舗を訪問し、試食しながら、マーケットについて、また地産の野菜・果物・畜産物について各自の研究テーマに沿って、メモやボイスレコーダーを用いて、英語でインタビュー調査を行った。



午後：CERES Environment Parkにて調査。ガイドのアリスさんから食の生産システムを学んだ。ゴミ捨て場だった土地をどのように浄化していったか、また環境に優しい農場のあり方について講義を英語で聴講した。また農園での現地実習活動も行った。ペアになって園内で栽培されている野菜を観察し、観察記録をとった。生徒それぞれが事前に準備してきた質問内容についてガイドのアリスさんにインタビュー調査を行った。

#### 4日目（11/22）：

午前：Eltham Farmers Marketにて調査。地元の生産者が産直で野菜や農産物の加工品などを販売していた場所。生徒たちは各自でそれぞれ積極的に調査活動を行った。最初は遠慮がちだったが、一人ひとりが店舗へ出向き、自分の研究テーマについてインタビュー調査を英語で行った。期待していたような回答が得られなかった場合もあったようだが、粘り強く、次々とテントを回り、インタビューを行い、多種多様な回答を得ていた。



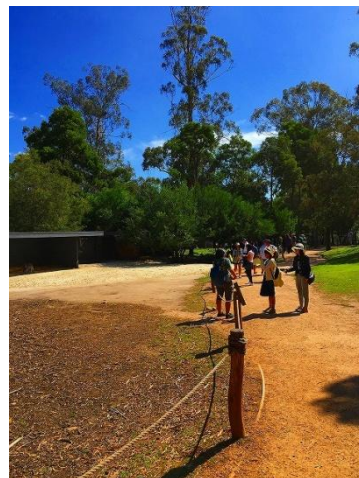
午後：Edendale Farmにて、職員のレイチェル・ビショップさんのフードマイレージについての講義、施設内見学、調査活動を行った。講義室内では、レイチェルさんが教材として準備していた食品のフードマイレージを調べる実習を行った。スーパーで売られている食品が、どこの国から来ているのか、実際に地図と定規を使って距離を調査した。農場内では地産地消を推奨していた。



続いて農場へ出かけていき、各施設の説明を行った。メルボルン市内の各家庭でオーストラリア特有の植物の栽培を推奨しており、その植物の苗を販売していた。農場内でのリサイクル活用を実際に学んだ。家畜の糞尿をミミズコンポストで肥料にする方法を紹介してもらった。また実際に肥料になる過程を見学し、レイチェルさんは生徒からの質問に答えていた。また農場内の家畜（七面鳥、おんどり、羊、ロバなど）が放し飼いで飼育されており、家畜の餌やりや土地活用法を実践的に学んだ。



その後、メルボルン市内からバスで約 50 分移動し、Healsville Wildlife Ecological Sanctuary にて、オーストラリア特有の動物観察をした。道中、ヤラバレーのワイナリーのブドウ園、牛、羊など放牧されていた。園内は、オーストラリアの特有の動物相（カンガルーやコアラ、タスマニアデビル、フォンバッド、エミュー、カモノハシなど）を観察し、動物園内のサスティナビリティな構造についても学んだ。



## 5日目（11/23）：

午前：Eco-Living Centreにて、職員のブロニーさんからメルボルンに生息するコダカペンギンを守るためのNPO団体の活動を紹介してもらった。



### セッション1：エネルギー／園芸／水資源の活用

教材用のビデオを2本見てから、メルボルンのセントキルダに生息するコダカペンギン保護についてのレクチャーを聴く。現在約1000匹のペンギンが生息しており、海岸に落ちているゴミがペンギンを傷つけることが多い。例えば、釣り針やプラスチックのごみ、たばこの吸い殻がペンギンの生息に悪影響を及ぼしていることや、NPOのボランティアが海外のごみを拾い、ペンギンの生息する環境を守っていること、また海水に流しだされている廃液からペンギンを守るために、ペンギン用のニットのベストを世界中から集めていることなどを教えてもらった。ペンギンが安全に生息するためのサステイナブルな活動として、海岸をきれいな環境に保つことが一番重要である。



### セッション2：海洋動物／ゴミ

施設内のガーデンを見学。ミミズを使ったコンポストや雨水を利用した花壇を見学した。ペンギンが生息するビーチまで、ゴミ拾いをしながら、30分ほど歩く。たばこの吸い殻やファーストフードの包装など、多くのごみが落ちていた。生徒たちはビーチまでの道のりを、ブロニーさんの説明を聞きながら、実際のNPOの活動を体験した。ようやくペンギンが生息している海岸に到着し、そこで実際に岩場に隠れているペンギンを見ることができた。



午後：Werribee Market Gardenにて、ブロッコリー農家を訪問。メルボルン市内より、バスで約50分の場所にある家族経営のブロッコリー農家。エーカーやトンなど使っている単位の違いから、スケールの大きさに圧倒された。このあたりの地域では標準規模の農家。息子のアンドリューがブロッコリーの栽培から出荷まで、すべての行程を実演しながら、丁寧に説明してくれた。生徒たちは、オーストラリア英語に苦戦しながらも、地下水をくみ上げての水の確保やブロッコリーの栽培方法などについて積極的に質問していた。また、梱包作業や水やりを行ったり、最後に大型のトラクターに乗せてもらったり、束の間の農家を体験した。



午後11時：空港着。帰国の途へ。

## 【研修を終えて】

4泊6日の日程は、充実した内容だった。行きフライトの変更などもあったが、メルボルン現地滞在中は天気もよく、無事に研修を終えることができた。オーストラリア英語に苦戦しながらも、事前に準備してきた各自の研究テーマについてのインタビューや調査活動を積極的に行っていた。研修内容以外にも、生徒たちが経験したことは、フライトの変更、現地の寒暖の差、英語の違い、人種の違いなどを感じられた点で、大変有意義だったと考える。

また現地でのコーディネートをしてくれた連携先のビクトリア大学のマーク・ビカーズ先生には、大変感謝している。ガイドブックや観光旅行では体験できない、アカデミックの研修を企画に尽力してくださった。次年度の研修旅行についても、今年よりももっと有意義な研修になるように、アドバイスをいただいた。

今回はスケジュールがタイトだったために、生徒たちの集中力が切れそうになってしまう場面も見受けられた。次回はもっと余裕をもった日程の調整が必要と考える。

またビクトリア大学の研究室とスカイプでつなぎ研修後の報告会を行う予定。また今年2月の研究発表に向けての準備として、スカイプを通して大学からの指導を受けていく予定。

## 【参加した生徒から】

- ・「伝えたい」という気持ちをしっかりもって積極的に行動する大切さを学びました。外国人に対する抵抗感や恐怖感がなくなりました。いろんな面で成長できたかけがえのない時間となりました。
- ・このFWに参加して一番よかったと思うことは、積極的に自分の考えを言ったり質問したりできるようになったことです。このFWで得たことをこれからのSGHの活動や将来にも生かしていきたいです。
- ・重要なのは、言語ではなく伝えようという気持ちなのだと思いました。今後も英語のコミュニケーション能力と純粋なコミュニケーション力をつけていきたいです。
- ・自分の考えなどは、はっきりと伝えるべきだと改めて思った。
- ・自分の英語は、海外でも通じるんだと少し自信になりました。この活動をきっかけに、また海外に行って現地の人と交流したいと考えるようになりました。
- ・こういう質問をすればよかったなとかもっと聞き返したらよかったなと反省しました。この何にも代え難い経験をSGHの活動に限らず、将来社会に出てからも自分の糧としていきたいです。
- ・毎日が新鮮でとてもおもしろかったのと同時に多くのことを学ぶことができました。消費者と生産者で異なる意見を手に入れることができたので良かったです。



- もっと英語を勉強しようと思ったことです。また実際に見て感じるものが何よりも大切だと思ったことです。
- FW は人生の中で一番よい経験だった。積極的に活動できたので自分でも驚きだった。どんどん質問できた。学んで終わりではなく、成果のまとめをしてここからより本気を出して頑張っていきたい。
- 景色や町並みから感じることもあり、人々の生活を見ることができました。地元の人々と話す聞くことがたくさんできて、よい経験になりました。